

プレスリリース

情報処理学会

情報規格調査会

2006-03-14 情報規格調査会

**情報処理学会試行標準に基づいた国際標準が発行
「国際漢字サブセット」としてUCSの一部に**

社団法人 情報処理学会 情報規格調査会(東京都港区, 会長:石崎 俊)は, 情報処理学会試行標準IPSJ-TS 0005「符号化文字基本集合」(*1)およびIPSJ-TS 0007「符号化文字基本集合・日本コア漢字」(*2)に基づいて開発した「国際漢字サブセット」(IICORE, International Ideographs CORE set) が, ISO/IEC 10646:2003/ Amendment 1:2005の一部として正式に発行された国際標準となったことを発表します。

国際標準ISO/IEC 10646(UCS: Universal Multiple-Octet Coded Character Set) は, デファクトスタンダードであるUnicodeとしても知られ, 全世界の文字を包含する新世代の文字コードの国際標準です。世界中で共通に使える文字コードとして, 各国語用の文字を全て含むように設計していることが特徴です。長年の標準化活動の結果, 文字総数が既に約11万字となっていますが, このうち約8万字を漢字が占めています。しかし, 文字数が多い結果, 利用できる資源に制約の大きい携帯端末などでは使いにくい場面も生じていました。

このような状況を踏まえ, 情報規格調査会では, 東京学芸大学の松岡榮志教授が主査となって2002年に情報処理学会試行標準 IPSJ-TS 0005(符号化文字基本集合) を公表しました。我が国だけではなく, いわゆる漢字圏で共通に使い日常生活の用を満たす UCS のサブセットでした。この情報処理学会試行標準の元になった考えは, なるべく基本的で必要最小限な国際漢字集合を標準化しようというもので, 情報規格調査会の和田弘名誉会長の強いリーダーシップによる国内および国際的な推進活動がありました。

国際標準化組織ISO/IEC JTC1の下では, サブコミッティーSC2が文字コードを担当し, さらにSC2/WG2の下組織として IRG (Ideographic Rapporteur Group) がIICOREの国際標準化を担当してまとめて来ました。我が国から提案した情報処理学会試行標準IPSJ-TS 0005 は, そのIRGで審議する際のベースとなりました。その後, 各国から出された提案や, 我が国から追加提案した IPSJ TS 0007 などを含めて検討が進められ, 2004年の春に原案がまとまりました。これが, 国際標準に対する追補1の一部として, このたび承認され発行されたものです。

IICORE は, 1万字弱の漢字集合からなり, 漢字圏の多くの国で共通に使える日常生活の用を満たすものとなっています。今後, 携帯端末や情報家電などで活用されることが期待されています。

(*1) http://www.itscj.ipsj.or.jp/ipsj-ts/02-05/ips_bsec/toc.htm

(*2) <http://www.itscj.ipsj.or.jp/ipsj-ts/02-07/coreset/toc.htm>

プレスリリースについての問い合わせ先

社団法人 情報処理学会 情報規格調査会 事務局責任者 三田 真弓

住所: 〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3

TEL: 03-3431-2808 FAX: 03-3431-6493 E-mail: standards@itscj.ipsj.or.jp

<http://www.itscj.ipsj.or.jp>